

はじめに

伊藤忠記念財団が障害のある子どもたちの読書支援を目的として、電子図書普及事業を開始してから、2023年度で14年目に入ります。この間、障害者差別解消法などの法整備が進む一方、GIGAスクール構想による子どもたち1人1台の端末配置、高速通信ネットワーク環境の整備などが進められています。子どもたちを取り巻く環境が大きく変化する中、特別な支援を必要とする子どもたちを含め、誰一人取り残すことのない教育を実現する動きが、ようやく進み始めています。

今回の報告では、子どもたち1人1台の端末とWi-Fi環境の整備等、デジタル環境が整ってきたことを背景に、国立国会図書館の「視覚障害者等用データ送信サービス」を活用し、スムーズに子どもたちの読みたい本を貸し出すことができるようになり、貸し出し冊数も格段に伸びたという学校での事例や、学校のクラウド上でオンライン図書館を作り「わいわい文庫」の蔵書管理をしている事例、マルチメディアDAISY図書をダウンロードした閲覧用タブレットの貸出・宅配サービスを行っている公共図書館の事例も掲載しております。また、公共図書館が「わいわい文庫」を含むバリアフリー図書の周知活動として、「りんごの棚」の設置や地域の学校やボランティアと一緒に「日本昔話の旅」シリーズの製作にご協力いただいたエピソードもお寄せいただいております。

お忙しい中、実践事例報告にご協力をいただきました皆様には、心より感謝いたします。

さて、本事業開始当初より、毎年全国の公共図書館にご協力いただき開催してまいりました「読書バリアフリー研究会」は、新型コロナウイルス感染症の影響で、2年間、実開催を見送ってきましたが、2022年度は全国4か所で3年ぶりに開催することができました。この研究会では、障害のある子どもたちへの読書支援活動を行う方々をサポートすべく専門の先生による最新の情報や実践事例を紹介するとともに、わいわい文庫の紹介・周知活動を行っており、今後も継続してまいりたいと思います。

最後になりますが、2023年1月末に当財団ホームページ（「わいわい文庫活用術」のページ）を一部リニューアルいたしました。障害種ごとに分類し、キーワードでの検索機能を加えております。過去に掲載している活用事例も閲覧しやすくなりましたので、こちらもぜひご活用ください。

<https://www.itc-zaidan.or.jp/summary/ebook/waiwai-use/>

2023年3月

公益財団法人伊藤忠記念財団